



報道関係者各位

2016年2月23日

株式会社ディー・エム・ピー  
東北大学 災害科学国際研究所

SmartEyeglass 等のウェアラブルデバイスや  
震災アーカイブデータを活用した被災地観光・防災教育ツアー  
『AR HOPE TOUR in Sendai』開催のお知らせ

株式会社ディー・エム・ピー（宮城県仙台市 代表：小林 篤信 以下 dmp）と東北大学 災害科学国際研究所（以下、IRIDeS）は2015年3月に実施した被災地観光ツアー「NATORI AR HOPE TOUR ※1」をベースに次世代型観光・防災・減災ソリューションの事業開発を目指し、実証実験を兼ねたツアーを2016年3月12日仙台市にて実施いたします。

dmp はシナリオの監修および震災アーカイブデータの提供を IRIDeS より受け、ソニー株式会社（以下、ソニー）の協力のもと、ウェアラブルデバイスやタブレット端末など、様々なデバイスを活用し、臨場感のある震災記憶の疑似体験や、防災シミュレーションコンテンツの開発をすすめています。

震災から5年を迎え、復興計画もひと区切りとなります。被災地を実際に訪れ、地域の過去・現在・未来を体験いただき震災記憶の伝承と、個々人の防災意識を高める方策として今回のツアーが一助になることを期待しています。

今回の実証実験では、ソニーの機器提供により、AR（拡張現実 ※2）グラスとして同社製メガネ型端末 SmartEyeglass 『SED-E1』を、タブレット端末として『Xperia™ Z4 Tablet』を用います。

ソニー株式会社 SIG 事業室 武川 洋 統括部長のコメント

「SmartEyeglass は、Developer Edition としてアプリ開発者向け製品と SDK を提供し、AR(拡張現実)を実現するメガネ型端末の活用シーンを探索しています。この度、dmp 様から被災地観光ツアーという我々の思いもよらない用途で SmartEyeglass の新たな活用シーンをご提案いただき嬉しく思います。我々の製品が、少しでも防災、減災のお役に立つことに繋がれば光栄です。」

## 【実施背景】

dmp では 2015 年 3 月に国連防災世界会議 in 仙台のパブリックフォーラム内において「NATORI AR HOPE TOUR」と題し、ソニー製 SmartEyeglass による AR を活用した被災地観光の実証実験を国内外の防災減災関係者向けに実施いたしました。実施後の反響にニーズを感じるも課題も散見されました。特に地域に合わせた防災教育に効果的なシナリオとコンテンツの充実が必要と考え、IRIDeS に協力を要請。みやぎ産業振興機構の助成を受け、産学連携にて事業化を目指しています。

### ○「AR HOPE TOUR in Sendai」概要

主催：株式会社ディー・エム・ピー、東北大学 災害科学国際研究所

共催：仙台市 ※仙台防災未来フォーラム 2016 関連イベント

日時：2016 年 3 月 12 日（土） 13:30～15:30（予定）

場所：仙台市地下鉄東西線荒井駅内「せんだい 3.11 メモリアル交流館」2F スタジオ他

※ 09:30～11:30 の時間で招待者・報道関係者向けのデモツアーを実施いたします

募集人数：25 名（先着順）

応募方法等詳細は下記 Web サイトよりご確認ください。

URL：<http://www.dmp.co.jp/ar-hope-tour/>

行程：地下鉄東西線荒井駅～荒浜地区～七郷地区（バス移動となります）

ツアー内容（予定）：※荒天時プログラムの変更がございます。

事前レクチャー/現地ツアー/ラップアップ

- ・ 震災前後の風景の AR 表示
- ・ 津波の高さの擬似体験
- ・ 発災から現在に至る映像コンテンツ視聴

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社ディー・エム・ピー（担当：佐藤慧）

宮城県仙台市青葉区一番町 2-8-18 仙台中央ビル 8F

TEL：022-214-2772（平日のみ）

Mail：[ar-hope-tour@dmp.co.jp](mailto:ar-hope-tour@dmp.co.jp)

東北大学災害科学国際研究所 災害アーカイブ研究分野（担当：柴山）

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1

TEL：022-752-2099（平日のみ）

Mail：[shibayama@irides.tohoku.ac.jp](mailto:shibayama@irides.tohoku.ac.jp)

※ 1 「NATORI AR HOPE TOUR」について

宮城県農業高等学校の AR グラスを用いた観光アイデアをもとに、ソニー株式会社の協力のもと dmp が開発、宮城県名取市閑上地区にて実証を実施。

※2 AR（拡張現実）について

現実環境にコンピュータを用いて情報を付加提示する技術の総称。

被災地の風景（現実の環境）に、いまは体感することのできない震災前や震災直後の風景といった過去、未来の情報（追加情報）をその場に表示させて、ツアーの内容理解を深めます。